



六 六 六

寺魚守指宿之係藤の海者隠も
 為の白比酒海下甲の中魚貫
 白魚マ纏網の下下外毛
 白魚マ丸マ育ク空の机
 四砂鉢鉢下り白魚小
 白魚マ一也りか勝の中
 荒磯のうまき知み白魚小
 名ももあまの美人小
 赤魚や河下下下も夢埃
 白魚マ丸見下空下隅田川
 白魚マ丸見下空下隅田川
 白魚マ丸見下空下隅田川
 菜の花や雪守の意出下日やけ
 白のくねや井もゆ花の色
 菜の花や得下白油糸
 菜のこしや赤下白油糸
 菜のこしや赤下白油糸
 菜のこしや赤下白油糸
 菜のこしや赤下白油糸
 菜のこしや赤下白油糸

真砂
 在亭
 内房
 松依
 物
 カル
 虎門
 金平
 日本
 上
 桑
 二
 三
 三
 二
 一
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二



六

耳角の風蕙りり尾若菜山
実のりんと雨とをぬふふ茶山
吹たつた音の音の音
茶もて月 古の茶山
吹たつた音の音の音
十のりんと雨とをぬふふ茶山
十のりんと雨とをぬふふ茶山
十のりんと雨とをぬふふ茶山

魚文 子遊 布泉 菜雨 祖栗 天角 凌人 芳中 淑月 合波 榮好 楚十 鰲登 尚古

六

更見くく 酒のぬりり更衣
更衣の度 掃く日 和り好
山に 練り 思り 更衣
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好

成崎 梅堂 響橋 檜山 雨川 文江 布泉 星阿 梅枝 芳中 龍曉 士全 海

六

更衣の度 掃く日 和り好
山に 練り 思り 更衣
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好

六

更衣の度 掃く日 和り好
山に 練り 思り 更衣
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好
更衣の度 掃く日 和り好

梅丁 梅丁
 柳櫻 柳櫻
 白秀 白秀
 千之 千之
 白露 白露
 毒聖 毒聖
 踏破 踏破
 蒼雄 蒼雄
 全 全
 喜鳥 喜鳥
 全 全
 喜行 喜行
 翠 翠
 風 風
 明 明
 寛 寛
 曉 曉

野群 野群
 干喬 干喬
 松翠 松翠
 梅仙 梅仙
 全 全
 梅首 梅首
 素芳 素芳
 參差 參差
 鐵舟 鐵舟
 千之 千之
 白秀 白秀
 喜鳥 喜鳥
 秋鹿 秋鹿
 月砂 月砂
 翠心 翠心
 常逸 常逸
 静 静

六 後掃やめりてわきまき外もく後 通油丁 魯丸
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 月 黄鳥
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 者 屏角 政風
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 乃 我 洞芝
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 女 一 會處
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 狗合 中ハシ 千喬
 六 陰掃やめりてわきまき外もく後 保掃 女 柳 睨

天 翠函 地 喜篤 人 素芥

後題

春駒 木の葉 水さ日

催三

後百六拾壹魚目
 三月分月次り合朱上
 其日氣白竹評

六 春駒や巳う尾報よ一走り 武治上 衣鳥
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 夕之
 六 春駒や巳う尾報よ一走り けり 除耕
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 十長 青碩
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 旭水
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 冬松
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 要月
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 秀腹
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 星阿
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 一十
 六 春駒や巳う尾報よ一走り 春駒 丸雪



去駒や鈴の音をうららの狗子名
 一 鹿門 政風
 枝の塔の姿 也まの駒
 下周の文 支を遠く 一の音の
 三石川 甲は
 六 下周の文 支を遠く 一の音の
 三石川 甲は
 山花 雀は 留河の音 一の音の
 糸の音の 檜木の木の音の
 糸の音の 檜木の木の音の
 糸の音の 檜木の木の音の
 糸の音の 檜木の木の音の
 糸の音の 檜木の木の音の
 糸の音の 檜木の木の音の

六 造り本や供の木の音の如く
 中台 文交
 六 角ふの多岐 伝名子の木の音の
 太二 政風
 六 水の音の 水の音の 水の音の
 上 椋山
 六 紙漉の音の 木の音の 木の音の
 六 水の音の 木の音の 木の音の
 六 水の音の 木の音の 木の音の

水は 音の 音の
 水の音の 木の音の

水は 音の

三
 二

永まのりや夕方い又人漁り 亦兩 栗居
 夢の窟の留守程のてりおが 夕 仕明
 遠いおのり子よさぬの目世が 五 洞
 永まのりお付く胸の拍子 五 富山
 夕方のうらに氣の息日お 五 城

夫一川巴

催主

後題 地壽頌

冬松 人冬松

冬草

續百六拾貳會目 かへり
 丑正月分月並句合朱上 其日登昇白若評

六 百葉やあかちりむらう親性 武治上 白秀
 夢の窟の留守程のてりおが 三 森篤
 遠いおのり子よさぬの目世が 番 地盤
 永まのりお付く胸の拍子 武治上 珠好
 夕方のうらに氣の息日お 三 芳詩
 永まのりや夕方い又人漁り 三 二川
 夢の窟の留守程のてりおが 三 成綺
 遠いおのり子よさぬの目世が 三 湖山
 永まのりお付く胸の拍子 三 白鷹
 夕方のうらに氣の息日お 三 白鷹

一 花の白く虫食ふ多し
 二 花の白く霞の芥花蓮
 三 花の白く朝星の舟生西
 四 花の白く日影の連星
 五 花の白く山甲の白き日紅
 六 花の白く雪路の白き小紫垣
 七 花の白く雪の白く小紫垣
 八 花の白く雪の白く小紫垣
 九 花の白く雪の白く小紫垣
 十 花の白く雪の白く小紫垣

後題

繼月

菜のみ

天冬松

北村静

人白秀

催主

續百六拾四會目
 丑三月分月並會合朱上 かつら
 其日葬白行評

一 草の白く雪の白く小紫垣
 二 草の白く雪の白く小紫垣
 三 草の白く雪の白く小紫垣
 四 草の白く雪の白く小紫垣
 五 草の白く雪の白く小紫垣
 六 草の白く雪の白く小紫垣
 七 草の白く雪の白く小紫垣
 八 草の白く雪の白く小紫垣
 九 草の白く雪の白く小紫垣
 十 草の白く雪の白く小紫垣

六 六

東之塘 乃新
 金屋浦 東起
 横山 一
 本橋丁 末園
 水戸 一醉
 六回堀 一徳

得類 天似鷄 地旭水 催五

夢 夢山子 人天音